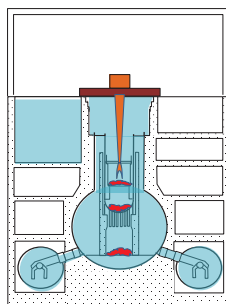
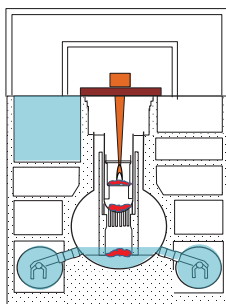


- 福島第一原発の廃止措置を終えるには、原子炉建屋内に残っている燃料や溶融（燃料デブリ）の取り出しが必須。
- このうち、燃料デブリの取り出しは過去に例のない困難な取組となるため、複数の工法について実現性を検証することとしている。
- そのための取組の一つとして、国内外の叡智を集めるため、燃料デブリ取り出し関連の技術情報（公募期間：平成25年12月～翌年1月。提供情報数：194件（うち約4割は海外から））や、燃料デブリ取り出しの工法や関連技術の国際公募（公募期間：平成26年6月～8月。採択事業数：11件（うち3件は海外事業者））が実施されている。

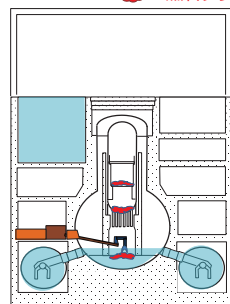
燃料取り出し工法のイメージ事例



冠水-上アクセス工法



気中-上アクセス工法



気中-横アクセス工法

● : 燃料デブリ

このロードマップでは、燃料デブリ取り出しの方法として、破損した原子炉格納容器を補修して、水を張り、水中で取り出す冠水工法が採用されており、これに向けた機器・装置の研究開発が進められています。

また、同時に、冠水が困難であった場合に備えて、バックアッププランの検討も進められています。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日